

少連協ニュース

発行所 / 足立区少年団体連合協議会

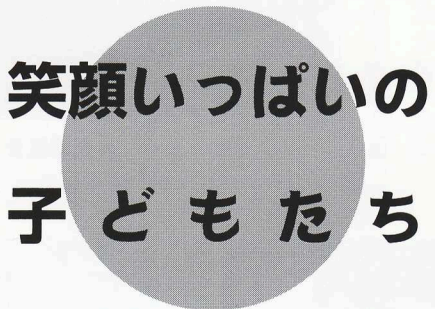
<http://www.a-shorenkyo.jp>

〒 120-8510 東京都足立区中央本町 1-17-1 足立区役所
青少年課 青少年事業係 TEL 03-3880-5275

発行人 山本 輝夫

編集 調査広報部

大林 市川 田中 小野田 高澤
南部 川下 山岸 高橋 加藤
石川 川田 辻村



笑顔いっぱいの子どもたち



私は足立生まれの足立育ち、かつてはあだちっ子であった。じき古希に届こうとしている自分が口にするのもおこがましいが、子どもの記憶を少したどることにする。

いわゆる下町っ子で、近所の仲間と徒党を組んでの遊びには事欠かなかった。探求心は遊びの中で広がってゆく。行動範囲は広く、西新井のお大師様から関原のお不動様、人で賑わう縁日は忘れられない。荒川の木造の橋も四本お化け煙突も遊びの対象だった。土手から滑るソリの体感。荒川の川岸でとったカニ。ボートでは潮に流され、仲間と必死にオールを漕ぎ、手のひらが水膨れで腫れあがり、川の怖さを思い知らされた。しかし、川面を滑るように突き進む快感は今でも忘れられない。荒川が教えてくれた自分へのプレゼントである。

自分で考え行動できる環境だった。ある意味、親の知らない世界を子どもなりに体験できる時代だったように思う。親はむしろ、口やかましく小言を言うこともなく、遠く距離を置いて把握していたのかもしれない。



足立区
少年団体連合協議会会長

山本 輝夫

地域のリーダーとは

新年の挨拶で「子どもは実体験を通して学ぶ」を掲げ、推進すると言いつつ、単位団体である足立区の子ども会、育成会は独自の伝統を引き継ぎ、各地少協の支援と交流により活動が実践されている。地域の思いを形に変える推進力は地域のリーダーの存在が大きい。

リーダーによって未来は大きく変わる。「未来を担う子どもたちのため」思いを形に変えられるリーダーが求められているように思う。

輪になって青い山脈

足立区少年団体連合協議会新年会

平成二十九年一月十三日（金）、綾瀬勤労福祉会館において、足立区少年団体連合協議会の新年会が開催されました。

第一部は、鈴木健治副会長の司会で始まりました。大林英夫副会長の開会の辞、区歌斉唱、山本輝夫会長の挨拶、足立区長代理足立区教育委員会定野司様（教育長）ほかの来賓祝辞、足立区立小学校長会会長半田英雄様（花保小学校長）の乾杯で第二部へ移行しました。



▲万歳三唱



▲会場風景

第二部の司会は、元井一壽総務部長が行い、恒例のビンゴ大会で大いに盛り上がりました。

中締めは、足立区町会自治会連合会会長有馬康二様が行いました。さらに万歳三唱は、足立区青少年委員会会長下川佐智子様が行いました。その後、恒例の「青い山脈」の歌を出席者全員手を繋いで、輪になって合唱しました。最後に、鈴木春男副会長の閉会の辞で新年会は閉会しました。



下川佐智子
足立区青少年委員会
会長

有馬康二
足立区町会・自治会
連合会会長

半田英雄
足立区小学校校長会
会長

高山のぶゆき
区議会議長

定野司教育長

山本輝夫会長



▲開会式 全子連丸山会長のあいさつ

足立区少連協では、平成二十九年二月十七日～十九日にわたり開催された第五十回全国子ども会育成中央会議・研究大会に参加しました。これは「地域のまち創りは子ども会から」をメインテーマに、福岡県久留米市の久留米シティプラザ ザ・グラントホールを主会場に全国から約六百名の参加者がありました。少連協からは、山本輝夫、野辺陽子、鈴木春男、大林英夫、鈴木健治、小野田みよ子、

まち創りは 子ども会から

第五十回全国子ども会
育成中央会議・研究大会



▲小野田みよ子書記



▲山本輝夫会長

林俊二の七名が参加しました。
▼第一日は開会式、表彰式、記念講演、対談、受賞者を囲む会、情報交換会がありました。
表彰式では、少連協の山本輝夫会長、小野田みよ子書記が表彰され、それぞれ丸山全子連会長から永年功労賞の賞状をいただきました。



▲講演する武末龍泰氏

記念講演は「いま、大切にしたいこと」をテーマに武末龍泰氏が講師としてお話しされました。武末氏は長い間教員をしていたというので、学校で出会った子どもたちを例にあげ、忘れてはいけないうことなどを話されました。
子どもと親という点では、卓球の福原愛選手親子を例にとり、四つの時期（してやる時期、一緒にやってやる時期、じっと見守る時期、自立の時期）があると説明し、とてもわかりやすい講演でした。
特に印象に残った言葉は「良い子とは大人に都合のよい子ではない」ということでした。
対談では「子どもの明るい未来」

い」と題し、新田信一郎氏（全子連理事）と神谷明宏氏（聖徳大学准教授）が話されました。JL生活の経験を有名私立大学の面接で話したら合格したという話から、東日本大震災の復興のボランティアをしたJLの高校生が、高校生国連大使に選ばれ、ジュネーブで発表したなど例をあげながら、そういう子どもたちが子ども会で育つと話されました。まさに子ども会が「地域おこし」をすると指摘されました。子どものたまり場を作って、地域の伝統文化の継承などもしていき、コミュニケーション活動を活発にしていきながら一緒に考えていくことが大切で、子



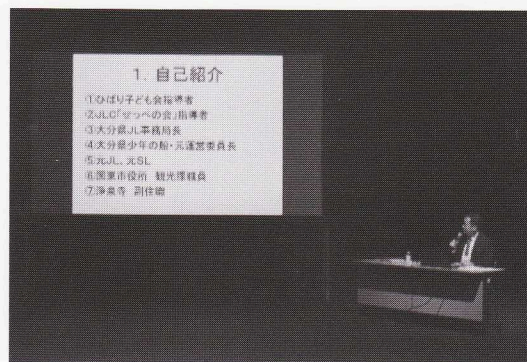
▲対談風景 新田信一郎氏（全子連理事）と神谷明宏氏（聖徳大学准教授）

ども会にはまだまだ明るい未来があるということ締めくくりました。
受賞者を囲む会は、萃香園ホテルで行われました。由緒あるホテルで、参加者たちも感激。
▼第二日は分科会です。「子ども会の中で育つ子ども〜子ども会が必要なわけ〜」をテーマに各会場に分かれて行われました。国東市の育成者が事例発表を行い、その後、意見交換会がありました。「会員が少なければ、合併、共同運営を」「地域で事業内容、資金が違う。少年の船の参加費が八万円（四泊五日）かかる」など、多

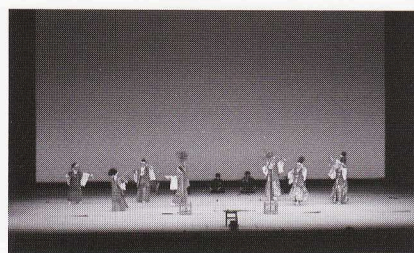


▲受賞者を囲む会 会場風景

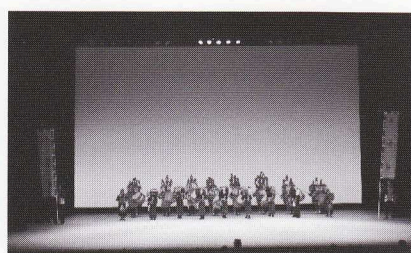
くの見が出ていました。
 また、郷土伝統芸能活動では、
 たくさんの発表がありました。今
 回のサブテーマは「子どもたちに
 残し伝えたい自然と郷土芸能」と
 なっており、力の入った出し物に
 なりました。郷土芸能は子ども会、
 学校、保存会と各単位は違うもの
 の、子どもたちによって引継がれ
 ていくことに感動しました。
 そのあと閉会式。子どもたちに
 輝かしい未来が到来することを願
 って、次回開催の滋賀県での再会
 を誓いながら閉会しました。参加
 者たちは翌日、地区視察をして幕
 を閉じました。



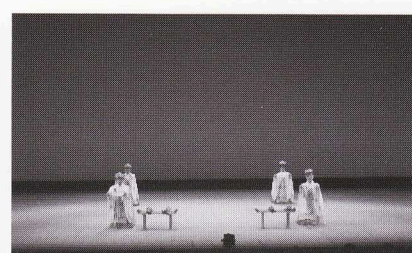
▲分科会での発表



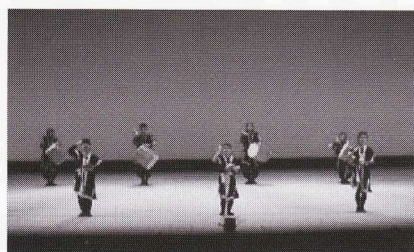
▲神楽「正護」
下青江神社子供神楽保存会



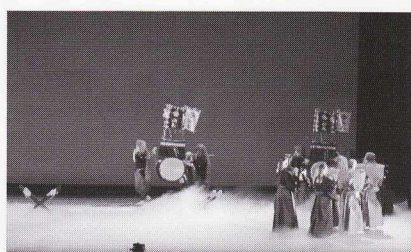
▲「山田楽」
阿久根市立脇本小学校 5年生



▲青幡神社例大祭への巫女舞奉納
東山代神楽の会

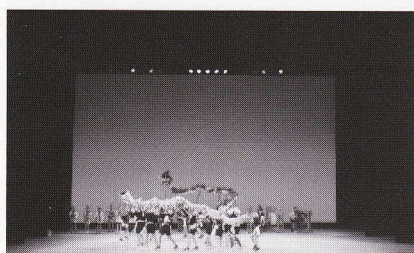


▲創作エイサー
沖縄県子ども会

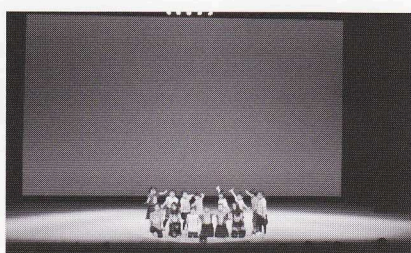


▲御井町風流（久留米市指定無形民俗文化財）
御井町風流保存会

郷土伝統芸能 活動発表



▲龍踊
長崎市立諏訪小学校



▲ボディパーカッション
久留米市子どもたち



▲八千代座子どもカブキ教室の公演
山鹿市民歌舞伎の会



▲今回の参加者



▲引継ぎ式

交流を通して学ぶ
江東五区ジュニアリーダー
合同研修会の報告

副会長 大林 英夫

▼主催 江東五区少年団体協議会
▼開催日 平成二十九年
一月八日(日)

午前十時から午後四時まで
▼開催場所 江東区立水神小学校
多目的室

▼出席者 江東五区ジュニアリーダー(三十名) Ⅱ内訳Ⅱ足立区(四名)・葛飾区(四名)・江戸川区(八名)・江東区(八名)・墨田区(六名)

研修会参加育成者十二名
江東区のジュニアリーダー(江



▲開会式

東JLCの司会で開会式が始まり、江東JLCの五十嵐会長の挨拶で開始しました。以下、行われた行事を項目ごとにまとめました。

■レクリエーション研修

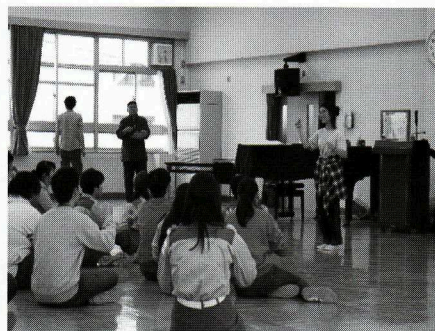
墨田区教育委員会生涯学習青少年担当の須藤主事(すみだ青年協力隊代表)が講師となりました。講師もJL育ちだそうです。昨年に引き続き、導入、自己紹介でJLの心をまず掴みました。研修は、ワールドカフェの手法を使い、これからの江東五区のJLの活動方針などをまとめて発表しました。

■レクリエーション交換会

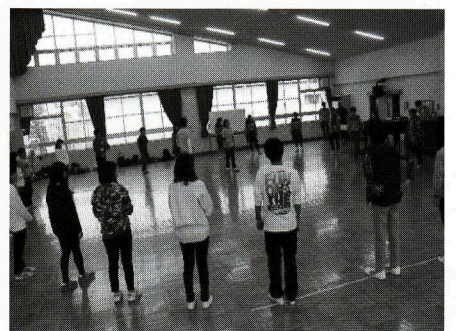
他区のJLのレクゲームを参加者全員が体験することで、ゲームの幅を広げていきます。子ども達が生き生きと得意のレクゲームを



▲レクリエーション交換会



▲足立区ジュニアリーダーズクラブの発表の様子



発表していました。

■「ジュニアリーダー」のレクリエーション指導法

講師の方が、レクリエーションの指導法を、人数、年齢、男女比等も考慮しながら、実践をまじえて細やかに教えてくださいました。リーダー達も楽しみながら、上手くないときは、「なぜ?」「どうして?」と質問を入れます。講師の先生はそこでゲームを止めて、原因、理由等を解りやすく説明してくれました。最後に、テキスト、指導要領書をいただいて終わりました。

■感想

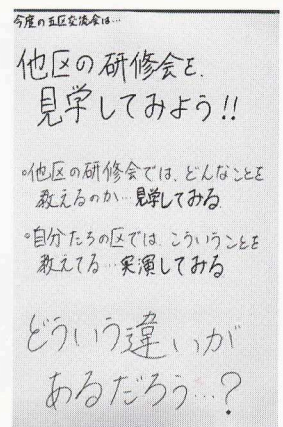
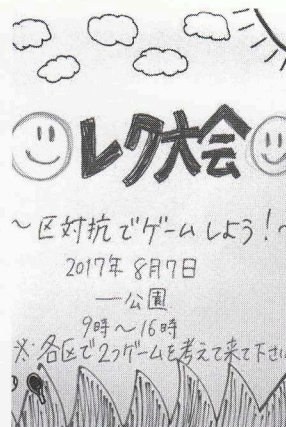
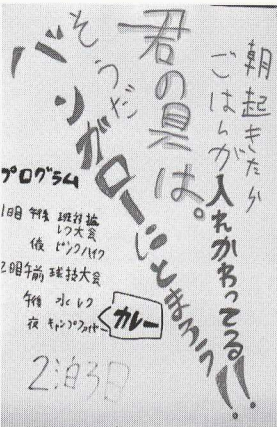
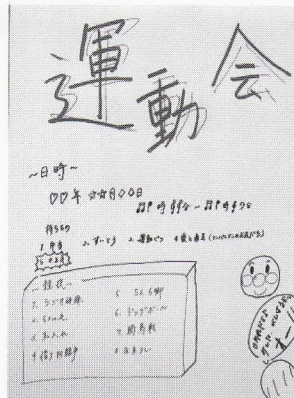
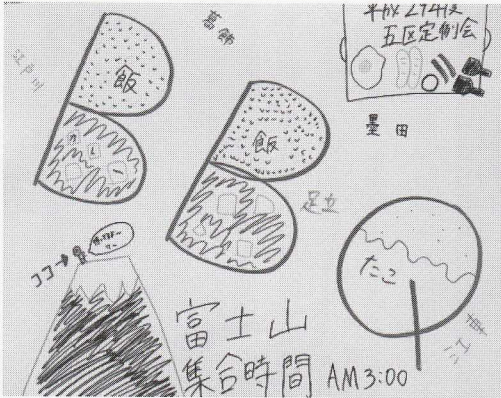
昨年の墨田区主催、今年の江東区主催と二年続けて足立区少連協JLは参加してきました。研修会の内容、会場等はJLの研修にふさわしいものでした。

正月明けの日曜日、指導者クラブ関根さん、JLクラブ四名小熊さん、井上さん、高橋さん、門脇さん、教育委員会久保係長、少連協より四宮育成部長、大林副会長と八名で今年は参加しました。

このような機会を子ども達にどんどん与えて、交流の場を与えていきたいと思えます。役員、常任

理事も機会があれば、足立のジュニアリーダーの成長と他の地域との交流を通してその経験を自分たちの地域に反映をしていくことを望みます。

江東五区の活動方針



▲足立区の参加者



▲参加者集合写真



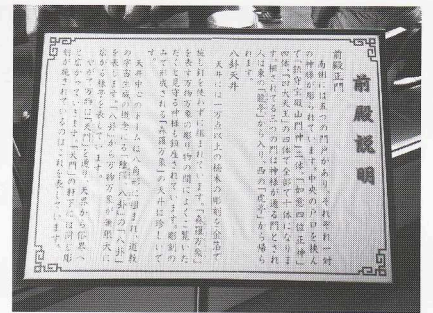
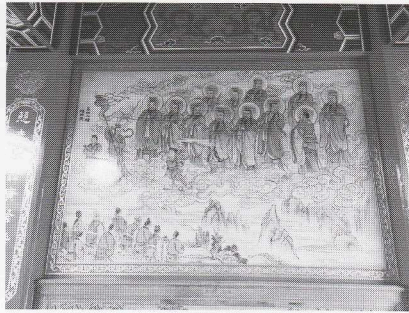
▲聖天宮

去る平成二十八年十一月二十七日(日)「少連協日帰り研修旅行」を開催いたしました。
 当日は、山本輝夫会長、野辺陽子顧問をはじめ、総勢四十八名の参加がありました。また、今年はこちらのアタカマ市から足立区へ体験留学に来ていた男女二人の高校生も参加をして、とても賑やかな研修旅行となりました。
 車中での研修のあと、はじめに見学したのは、聖天宮という台

富岡製糸場や 聖天宮見学
 少連協日帰り研修旅行
 総務部長 元井 一壽

湾の道教のお宮でした。とてもきらびやかな作りで、石柱の彫刻が素晴らしく、日本でこれだけの細工ができる石工は数少ないと思います。驚いたことにこのお宮は、康國典大法師という方が一人で建てられたそうです。皆様も一見の価値があると思います。

次に群馬県庁の三十階にある展望フロアーに上がりました。天気も良く素晴らしい景観でした。そ



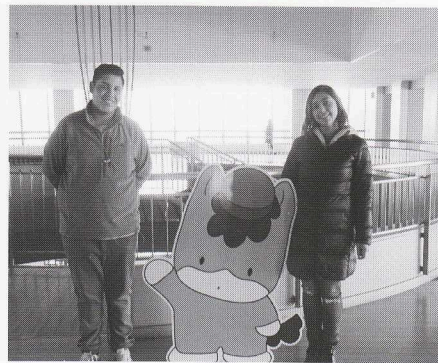
▲聖天宮

の後、昼食をとり、いよいよ二〇一四年に世界遺産の認定を受けた富岡製糸場の見学です。場内はとても広いのですが、解説の方が同行してくれたので、とてもわかりやすく見学ができました。

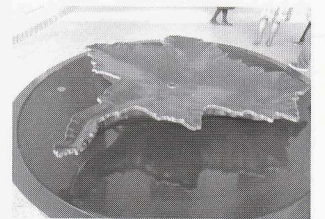
いずれの施設も地少協の研修会でも利用できそうな施設でした。

今回は、車中でJし宿泊キャンプでも行っている到着時間あてクイズ等で盛り上がりました。

また、この研修旅行では、たくさんの方々に資料や景品をいただき



▲アタカマ市の留学生
(群馬県庁展望フロアーで)



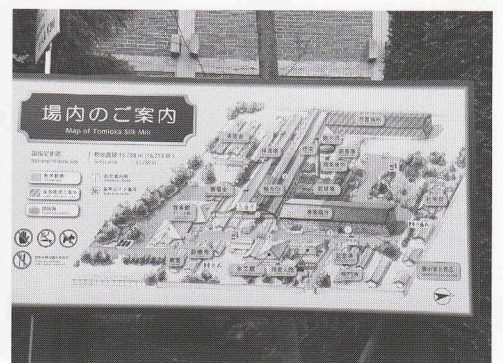
▲鶴舞う形の群馬県

き、大変助かりました。ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

私も総務部は、次回も楽しい研修旅行を企画いたしますので、多くの方々にご参加くださいますようお願いいたします。報告を終わります。



▲富岡製糸場



平成二十九年二月十一日(土)、足立区総合スポーツセンターにおいて、第九回少連協主催ドッジビー大会が開催されました。今年小学生の部十一チーム、小・中学生混合の部七チームの足立区各地の精鋭が熱戦を繰り広げました。

スポーツ推進委員のご協力で大会開始前にコートラインを鮮明に貼り直し、試合環境も格段に良くなりました。

小学生の部で二連覇したのは青

**雪辱晴らした
第五地少協
第九回ドッジビー大会**



▲選手宣誓



▲開会あいさつ

井地少協の《加平キッズ》。また、小・中学生の部では昨年の雪辱を晴らした第五地少協の《愉快な仲間たち》が八回目の優勝を果たしました。
今年、入賞したチームの子ども全員に、A4サイズの賞状が手渡されました。かつてない試みで子どもたちの喜びもひとしおだったと思います。



▲開会式の会場

二十九年度は、第十回大会です。さらに多くの地域からより多くのチームの参加があることを期待します。
たくさんの方の参加チームで、試合運営本部の嬉しい悲鳴があがるのも楽しみです。
(田中加代 記)



▲事業研修部役員



▲ドッチビー試合風景



59号発行が大幅に遅れましたことお詫び申し上げます。
各地少協活動の活性化のヒントが得られるような紙面作りを心掛けていきたいと思えます。乞うご期待。

編集後記



▲チームカバチジュニア



▲第五地少協

お詫びと訂正

少連協ニュース第 59 号 7 ページの「第 9 回ドッジビー大会」小学生の部の優勝記事の内容に誤りがありました。
訂正させていただきますとともに関係者の皆様にお詫びいたします。

○小学生の部優勝

正：蒲原地少協《チームカバチジュニア》

誤：青井地少協《加平キッズ》 ※二連覇ではありませんでした
